

文学部 心理学科（3つのポリシー）

教育の理念

心理学科は、理論と実践の両面から幅広く人の心と行動に関する知識を学ぶことを通して、客観的な分析、判断、洞察など科学的なものの観方および考え方を身につけた、社会の広い分野で活躍できる人間性の豊かな人材の養成を目的とする。

そのために、幅広い教養と心理学についての体系的かつ専門的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行う。それにより、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを心理学科の教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学科が定める124単位以上を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、心理学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び心理学科が求める専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、心理学領域の知識を生かし、かつ自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、心理学領域の知識を活用しながら他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

心理学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について－すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために－（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた 4 つの能力を身につけることを目的とし、教育課程を大きく専門教育、基礎教育、教養教育の区分に分け、それらを体系的に学習できるように編成する。これらの科目は、直接的あるいは相互補完的に科学的な課題探究能力および実践的な課題解決能力の向上を促すことを目的とし、各科目は講義形式ならびに少人数の演習・実習形式のクラス編成のもとに双方向的な授業を行う。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1.教育内容

- 1) 基礎教育として、コミュニケーション・スキル及び言語操作能力を開発するために、「キャリア教育入門」「外国語科目」「実験実習科目」「演習科目」が配置されている。また、情報リテラシーの習熟のため、1 年次必修科目として「コンピュータ実習」、2 年次以降も選択科目として「情報処理ⅠA／ⅠB・ⅡA／ⅡB」を配置した。さらに、数理データ操作技能の上達のために、1 年次必修の「心理統計Ⅰ・Ⅱ」、その他の「実験実習科目」「卒業論文」を必修科目として配置した。
- 2) 専門教育として、心理学における基盤的知識を体系的に学習するために、1 年次に「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、2 年次「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」、3 年次に「心理学実験演習」を配置した。さらに 1 年次に学んだ「仏教と人間」の発展科目として「禅心理学Ⅰ」を 2 年次の必修科目として配置した。さらに、情報や知識を論理的かつ多面的に整理するとともに、それを呈示する能力を磨くため、3 年次選択科目として「心理学特殊演習」、4 年次必修の「演習」などの演習科目を体系的に配置し、4 年次必修の「卒業論文」の作成でその涵養をはかっている。
- 3) 教養教育として、社会、文化、自然に関する知識に基づき、人間社会への認識を拡大させるために、宗教教育科目、全学共通科目、保健体育科目が配置されている。

2.教育方法

- 1) 高校と大学、及び大学の基礎教育と専門教育を体系的に有機的に関連づけるための導入教育を実施している。例えば、1 年次全員が履修する「心理学入門」は、専任教員全員が分担して担当している。これにより、大学での学修のスキルを学ぶとともに、各教員の専門領域の研究を傾聴することで、心理学の色々な領域への関心が高まるとともに自らの将来の学修計画が立てやすくなる。
- 2) 講義形式の専門科目は、LMS を用いた資料の提供や小テストなどで学習の習熟度を高める。
- 3) 実験や実習科目に関しては、殆どがアクティブ・ラーニング形式であり、学習後の学生への手だてもレポート課題提出とその添削・返却と個人レベルでの教育を実施している。
- 4) 自立した人間として常に社会貢献をするという意識をもたせるために、1 年次よりキャリア意識を開発するための 1 年次全員履修の「キャリア教育入門」を実施している。

3.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分			DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい
全学共通科目	宗教教育科目		◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）			◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で 4 年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○		◎	○	4 年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学科は、駒澤大学及び文学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 心理学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

入学後は、建学の理念である仏教の教えと禅の精神を理解し、心理学の種々の領域への関心を高めるとともに、科学的なものの見方や考え方をすることができる。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、できれば基礎的な数学や理科の授業を受けていることが望ましい。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

実験や調査によって情報収集したデータを読解し、考察する。そして得られた成果を的確に記述すると共に他者にわかりやすく説明することができる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

主体的に自ら考え、行動するだけでなく、他者の意見も採り入れ、協働する姿勢をもつ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

心理学は、多様な教科を基盤にしているため、教育課程を幅広く修得することが望ましい。特に5教科においては、国語では文章構造の理解と小論文が作成できること。英語を中心とした外国語では長文読解と基本的な英作文ができること。数学は確率・統計、社会は公民における社会の在り方や人間としての生き方、理科は生物の仕組みについて学んでおくことが望ましい。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・多様な価値観を実感するために、教科の学習以外にも部活動やボランティア活動など課外活動に取り組む。
- ・インターネット等の情報技術の活用により、必要な情報を入手するための方法を広く学んでおく。
- ・周囲で起きている問題に関心をもち、問題解決に向けて情報を整理・分析したり、他者と意見交換したりする経験をもつ。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通 テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦型（総合 評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
特別選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		日本留学試験（成績）		◎			
		小論文等		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等		◎			
		英語		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	